

交流文化研究所 研究会「VTuber 文化はいかに記述されうるのか？」

【概要】

近年、「VTuber」と呼ばれる活動形態が社会的に広まりつつある。一般に「VTuber 文化」と総称されるこの文化は、2016 年 12 月——すなわち「バーチャル YouTuber」の草分け的存在であるキズナアイの活動開始の月——を象徴的な起源として発展してきたものである。そこから、「巣ごもり」を余儀なくされたコロナ禍を決定的な契機の一つとして、VTuber は急速に社会的知名度を獲得していった。現在、インターネットにおける大規模企画においてはたいてい VTuber も参加しており、アニメや映画の主題歌を VTuber が担当する事例も増え続けている。

しかし同時に、「VTuber」とは非常に錯綜した概念である。VTuber 文化を構成する諸文化は複雑に絡み合い、その様相はそのまま VTuber コンテンツの多様性へと直結している。例えば、2025 年 5 月 24 日に YouTube で初配信を行った「うおむすめ」(黄金マアジ、紅波マダイ、桃川ニジマス) は、いわゆる生身の姿で(顔だけをアイコンイラストで隠しながら)海釣りをするロケ動画を公開しているが、彼女たちは一般に VTuber として見なされている。他方で、2026 年 1 月 24 日・25 日に日本武道館で単独公演(バーチャルライブ)を行った如月千早は、一般に VTuber として認められていない。一体、この差はどこから出てくるのだろうか? いかなる要素が彼女たちを「VTuber」たらしめるのだろうか?

今回の発表では、VTuber 文化を構成するいくつかの文化をピックアップしつつ、広大無辺で複雑な VTuber 文化を明晰に見通すための説明図式を提案することを試みる。こうした試みは、ひいては多様な現代カルチャーの諸相、および「推し活」を通して心を動かされる人々の心性やその社会的行動を解明するプロジェクトの端緒を開くものとなるであろう。